

平成21年木材利用促進及び木材需給会議の概要について

1 日 時 平成21年4月13日(月) 14:00~16:40

2 場 所 経済産業省別館10階1014会議室

3 議 事 (1) 木材の利用拡大に関する施策
(2) 木材(用材)需給の見通し

4 出席者の主な発言内容

- ・消費者に対し十分な情報提供がない。消費者の中には、潜在的に国産材を使って家を建てたいという要望があるが、それを実現するための情報が少なく、業界から消費者が国産材の家を選択することができるような情報を一層提供して、木材利用について積極的にアピールすべきである。
- ・現在重要なのは、外材か国産材かを問わず、木材全体の利用、需要を増やすことである。そのために木材を利用した住宅を増やすのは重要である。行政の取り組みは今後とも進めていく必要がある。また木材は、他の素材に比べ、如何に環境にやさしい素材かという原点に立ち返ったPRを、教育も含め、業界でも国全体でもやっていく必要がある。
- ・国産材の利用は、消費者が選択をするということが重要である。選択できるためには、消費者に対する十分な情報提供が必要である。このため様々な取り組みをしており、例えば、割り箸等は小さなものであるが、身近な木材製品として一番認識しやすいものであり、これを国産材の製品とするため、アド箸などの取組みをしている。
- ・木材を商材として扱うのではなく、環境材という視点で見なければならぬ。木材が炭素を固定するなど木材利用が地球環境にやさしいということを業界人がよく勉強し、消費者目線で分かりやすく示し、認知をしてもらう必要がある。また、日本のような人工林が多い場合には木を伐り、それを木材にして使い、伐ったあとは植えるということが必要であり、間伐もする必要があるということを消費者に伝える必要がある。
- ・現在おそらく全世界の全産業の中で、一番厳しいのは住宅産業である。回復の度合いが全産業の中で一番遅いであろうと広く言われている。
- ・木材利用については、今迄使われなかった部分で、木材利用を増やしていく必要がある。例えば、住宅以外で、店舗、工場、学校、病院等の施設がある。

- ・事務所の床を木にしたら、非常に気持ちがいい。やはり実体験は重要である。ともかく木を実際に使ってみるということが必要である。
- ・木は炭素を固定すると言っても、木造住宅や木材製品を作るためにはどれだけの二酸化炭素を排出しているかということも加味した表示が必要であるし、木材については、樹種により、材の特性に相違があり、それを消費者が知らないと、納得した選択はできないので、知識の余りない方にも分かりやすい説明が必要である。
- ・21年の需給見通し(試算)が機械的に計算して7千万m³台になったということであるが、この7千万m³からどう需要量を上げていくのが重要である。それぞれの分野や業界が連携して頑張り、この数値を少しでも上昇させることが必要である。追加経済対策で相当な措置もしているということなので、その結果も加味していくべき。